

障がい者スポーツの授業実践

ーブラインドゴーグルを体験してー

鈴木淳也

玉川学園・玉川大学

健康・スポーツ科学研究紀要

第16号

障がい者スポーツの授業実践 — ブラインドゴーグルを体験して —

鈴木淳也*

要 約

2020年にオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることになり、今後益々、オリンピック・パラリンピック教育は学校現場へ導入されると考えられる。今回の研究は、生涯スポーツ演習（水泳）を履修している一般の大学生にブラインドゴーグルを体験してもらうとともに、障がい者スポーツに関する体験や認知度を調査することで、今後、障がい者スポーツを授業へ導入するための一資料とすることを目的とした。結果としては、視覚障がい者への理解が高まった。また、大学授業で障がい者スポーツを体験・学習したいと肯定的な意見を持つ学生が多くみられた。

1. はじめに

2013年9月7日にブエノスアイレスで開催されたIOC総会で、2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市が東京に決定し、大会に向けての準備も着々と進められている。現在、東京で2回目のオリンピック・パラリンピックが開催されるにあたり、文部科学省、東京都が中心となり、オリンピック教育の推進、ボランティア教育の充実など、オリンピックの意義や歴史、文化を学ぶ教育活動が増えてきている^{1,2)}。

障がい者スポーツ大会は、20世紀初頭にイギリスのストーク・マンデビル病院で実施された大会が始まりで、戦争で負傷した兵士の治療や社会復帰など、リハビリテーションのため、ロードヴィッヒ・グットマンの提唱で競技会が実施された。その後、1964年に開催された夏季オリンピックである東京で、初めて「パラリンピック」という名称が使用された³⁾。

2012年に開催されたロンドンパラリンピックでは、164カ国の地域から約6740名の選手や役員が参加した⁴⁾。と

りわけ、ロンドン大会では、2005年に招致決定してから、7年かけて国をあげて障がい者への法や環境整備を進め、過去最高の大会となった⁵⁾。オリンピック・パラリンピック大会期間中は、世界各国の選手やコーチ、観戦者が訪れるため、東京大会を成功させる上でボランティアの力は必要不可欠である。それに伴い学校教育でのオリンピック・パラリンピック教育は、東京大会に向けて今後ますます重要になるだろう。

そこで本研究では、大学生にブラインドゴーグルを着用させブラインドスイマーの疑似体験や障がい者スポーツに関するアンケート調査を実施し、大学生の障がい者に対する理解や認知度を明らかにするとともに、今後、障がい者スポーツを大学授業へ導入するための一資料とすることを目的とした。

2. 方法

被験者は、生涯スポーツ演習（水泳）を履修している学生33名（男子22名、女子11名）を対象とし、第8週目の授

業でブライドゴーグルを使用した授業を実施した。授業内容は、ブライドゴーグルの着用・非着用で、歩行、キック、クロール泳を行い、ノーマルゴーグルとの感覚の違いを比較させた（写真1）。授業の最後には、ブライドゴーグル着用・非着用の条件で15mクロール泳を行い、どれくらい蛇行するか体験してもらった。

（写真2）また、授業後には、大学生の障がい者スポーツに対する理解や認知度をアンケート調査した（資料1）。その他、詳しい授業の流れは、表1に示した。

統計処理は、SPSS Statistics 21 と Microsoft Excel 2013 を用いて行った。アンケートに関しては、適合度の検定、15mクロール泳におけるブライドゴーグル着用・非着用時の距離の差は、対応のあるt検定を行った。なお、統計の有意水準は5%とした。

3. 結果・考察

(1) 障がい者スポーツ経験と認知度

障がい者スポーツの経験と認知度に関するアンケート結果を表2に示した。

言葉の認知度に関する質問は、「障がい者スポーツ」が87.9%、「パラリンピック」が100%、「アダプテッド・スポーツ」0%という結果であった。障がい者スポーツの経験は、障がい者スポーツを見たことがある学生が54.5%、障がい者スポーツを体験したことがある学生が6.1%、障がい者水泳を見たことがある学生が27.3%であった。

「障がい者スポーツ」、「パラリンピック」の言葉は、2020年東京オリンピック・パラリンピックが決定してから、様々なメディアで障がい者スポーツが取り上げられ、学生も見聞きする場面が多くあったことが推察される。「アダプテッド・スポーツ」は、障がい者だけでな

く、幼児から高齢者など、体力が低い人も参加できるスポーツ⁶⁾の総称であるが、一般学生には馴染みのない言葉であったようで、知っている学生はいなかった。

障がい者スポーツの経験については、障がい者スポーツを見たことがある学生が半数、障がい者スポーツを体験したことがある学生は1割も満たない状況であり、現在の大学生は障がい者スポーツに触れる機会が少ないことが考えられる。表3と表4は、具体的な種目であるが、球技種目が多く挙げられ、種目の偏りがみられた。

(2) ブライドゴーグル着用時の

泳ぎへの影響

表5は、ブライドゴーグル着用時に関するアンケート結果である。ブライドゴーグル着用時に恐怖心を感じた学生は、78.8%であった。恐怖心の理由としては、「思っている以上に、視界が真っ暗で恐怖心があった。」、「全く見えなくて怖い。」等、多くの学生は日常生活とは異なった何も見えない状況に恐怖心を抱いていた。

15mクロール泳を主観的に真っ直ぐ泳げたと回答した学生は、開眼（ノーマルゴーグル着用）で72.7%、閉眼（ブライドゴーグル着用）で18.2%であった。図1は、15mクロール泳を実際に泳いだ際、スタート地点からどれくらい蛇行したか示したものである。図2と図3は、15mクロール泳でどれくらい蛇行するかアンケートで記入してもらった主観的な距離と実際に泳いだ際に曲がった客観的な距離である。やはり、開眼時よりも閉眼時の誤差が大きく、「自分がどこを泳いでいるのか分からない。」、「身体のバランスを意識して泳いだが曲がっ

てしまった。」のコメントからも、学生は予想以上に泳ぎをコントロールするのに苦労していた。

(3) 今後の課題

表6は、視覚障がい者への対応と大学授業に障がい者スポーツを導入することに関する質問結果である。「今後、視覚障がい者へ何かしら支援したい。」と回答した学生は、100%であった。また、大学授業で障がい者スポーツを体験、学習したい学生は、ともに75.8%と肯定的な意見が多くみられた。永浜ら^{7,8)}は、大学生が授業で障がい者スポーツの講義や実技を体験したことで、障がいのある人や障がい者スポーツへの理解が深まったと報告している。授業に対するコメントからも、「視覚障がい者の気持ちが理解できた。」、「視覚障がい者に出会ったら、支援したい。」など、先行研究と同様に、学生にとって障がい者を理解する貴重な経験となったようである。

今後は、一般学生だけでなく、体育専攻の学生など対象者を広げ、障がい者スポーツを授業に導入することで、障がい者への見方や意識変容など、どのような効果がみられるか調査していきたい。

4. まとめ

本研究は、生涯スポーツ演習（水泳）を履修している学生を対象に、ブラインドゴーグル着用した体験授業を通して、障がい者スポーツの理解や認知度を調査した。結果は、以下の通りである。

- 1) 障がい者スポーツの言葉の理解度は、「障がい者スポーツ」が87.9%、「パラリンピック」が100%とメディアの影響からか、比較的高い値を示した。
- 2) 障がい者スポーツの経験は、障がい者スポーツを見たことがある学生が

54.5%、障がい者スポーツを体験したことがある学生が6.1%であり、種目はサッカーや車いすバスケットボールなど、球技種目が多かった。

3) ブラインドゴーグル着用時は、日常生活とは異なった何も見えない状況に恐怖心を抱く学生が多く、15mクロール泳も蛇行する傾向がみられた。

4) 今後、視覚障がい者を支援したいと回答した学生は100%、大学授業で障がい者スポーツを体験、学習したいと答えた学生は75.8%と肯定的な意見が多かった。

参考文献

- 1) 東京都公式ホームページ「平成27年度オリンピック・パラリンピック教育推進校について」
<http://www.metro.tokyo.jp/INET/0SHIRASE/2015/03/20p35200.htm>
(2016/2/10)
- 2) 文部科学省ホームページ「オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/024/index.htm
(2016/2/10)
- 3) 高橋明「障害者とスポーツ」、岩波新書、2004年6月、pp97-122
- 4) 日本パラリンピック委員会、
<http://www.jsad.or.jp/paralympic/london/about.html> (2016/2/6)
- 5) 田中暢子「2012 ロンドンオリンピック大会の成功がもたらしたもの - 英国障害者スポーツの政策過程から学ぶ」、現代スポーツ評論 29、2013年11月、pp91-100
- 6) アダプテッド・スポーツ科学専門領域、<http://jspehss-ads.main.jp/> (2016/2/6)

- 7) 永浜明子、藤村浩子「アダプテッド・スポーツ体験による大学生の意識変化に関する事例報告（第Ⅰ報）-アダプテッド・スポーツ導入に向けた授業自己評価の観点から-」、大阪教育大学紀要 第Ⅴ部門 60(1)、2011年9月、pp39-49
- 8) 永浜明子「アダプテッド・スポーツ体験による大学生の意識変化に関する事例報告（第Ⅱ報）-アダプテッド・スポーツ導入に向けた授業自己評価の観点から-」、大阪教育大学紀要 第Ⅴ部門 60(2)、2012年2月、pp31-44

表 1 授業の流れ

| 時間 | 指導内容 | 指導方法 |
|------|------------------------------------|--|
| 0:00 | 本時の内容 点呼・体操 | ・障がい者スポーツ（水泳）の説明や競技会で使用するブラインドゴーグル、タッピング棒の解説 |
| 0:10 | 歩行 (15m×4本) | ・ブラインドゴーグル着用させ、水中歩行する。 ・ペアの学生が、歩く方向の指示や他の学生にぶつからないよう、支援させる。 |
| 0:18 | けのび (15m×2本) | ・基本姿勢をつくり、水中に潜ってから壁を蹴り、前方へ伸びる。ブラインドゴーグル着用・非着用で感覚の違いを体感させる。 |
| 0:23 | 板付きキック (15m×4本) | ・ビート板を使用しながら、クロールのキック動作を行う。 |
| 0:30 | 板なしキック (15m×4本) | ・基本姿勢をつくり、クロールのキック動作を行う。 |
| 0:36 | クロール (15m×6本) | ・最初は、キャッチアップクロールでゆっくりした速さで泳がる。ブラインドゴーグルに慣れたら、少しずつ泳速度をあげる。 |
| 0:45 | 泳力調査 (開眼：15m×1本) (閉眼：15m×1本) | ・ブラインドゴーグル着用・非着用で15mクロールを泳ぎ、感覚の違いやどれくらい蛇行するか体験させる。 ・ゴールタッチは、タッピング棒の合図で止まるように指示する。 |
| 1:05 | アンケート調査 | ・障がい者スポーツの理解や認知度に関するアンケートを行う。 |

表 2 障がい者スポーツの経験と認知度に関する項目

| 設問 | 「はい」 | | 「いいえ」 | | X ² 検定 |
|--------------------------------|------|-------|-------|-------|-------------------|
| | N | % | N | % | |
| (1)「障がい者スポーツ」という言葉を知っていますか。 | 29 | 87.9 | 4 | 12.1 | ** |
| (2)「パラリンピック」という言葉を知っていますか。 | 33 | 100.0 | 0 | 0.0 | |
| (3)「アダプテッド・スポーツ」という言葉を知っていますか。 | 0 | 0.0 | 33 | 100.0 | |
| (4)障がい者スポーツを見たことはありますか。 | 18 | 54.5 | 15 | 45.5 | |
| (5)障がい者スポーツを行ったことはありますか。 | 2 | 6.1 | 31 | 93.9 | ** |
| (6)あなたは、障がい者水泳を見たことはありますか。 | 9 | 27.3 | 24 | 72.7 | ** |
| | | | | | *p<0.05, **p<0.01 |

表 3 見たことがある障がい者スポーツ種目 (n=18)

| | |
|--------------|--------|
| ・車いすバスケットボール | ・水泳 |
| ・サッカー | ・テニス |
| ・卓球 | ・野球 |
| ・スキーなど冬季競技 | ・フットサル |

表 4 体験したことがある障がい者スポーツ種目 (n=2)

| |
|--------------|
| ・サッカー |
| ・車いすバスケットボール |

表 5 ブラインドゴーグル着用時に関する項目

| 設問 | 「はい」 | | 「いいえ」 | | X ² 検定 |
|---------------------------------------|------|------|-------|------|-------------------|
| | N | % | N | % | |
| (7)あなたは、ブラインドゴーグルをつけて泳いだ際、恐怖心がありましたか。 | 26 | 78.8 | 7 | 21.2 | |
| (8)あなたは、開眼で泳いだとき、主観的に真っ直ぐ泳げたと思いましたか。 | 24 | 72.7 | 9 | 27.3 | ** |
| (9)あなたは、閉眼で泳いだとき、主観的に真っ直ぐ泳げたと思いましたか。 | 6 | 18.2 | 27 | 81.8 | ** |
| | | | | | *p<0.05, **p<0.01 |

表 6 視覚障がい者への対応と大学授業に障がい者スポーツを導入することに関する項目

| 設問 | 「はい」 | | 「いいえ」 | | X ² 検定 |
|--|------|-------|-------|------|-------------------|
| | N | % | N | % | |
| (10)あなたは、視覚障がい者に接したことはありますか。 | 9 | 27.3 | 24 | 72.7 | ** |
| (11)今後、視覚障がい者に出会った際、何かしら支援したいと思いますか。 | 33 | 100.0 | 0 | 0.0 | |
| (12)今後、大学の授業で障がい者スポーツを経験したいと思いますか。 | 25 | 75.8 | 8 | 24.2 | ** |
| (13)今後、大学の授業で障がい者スポーツについて、学習したいと思いますか。 | 25 | 75.8 | 8 | 24.2 | ** |
| | | | | | *p<0.05, **p<0.01 |



写真1 授業風景

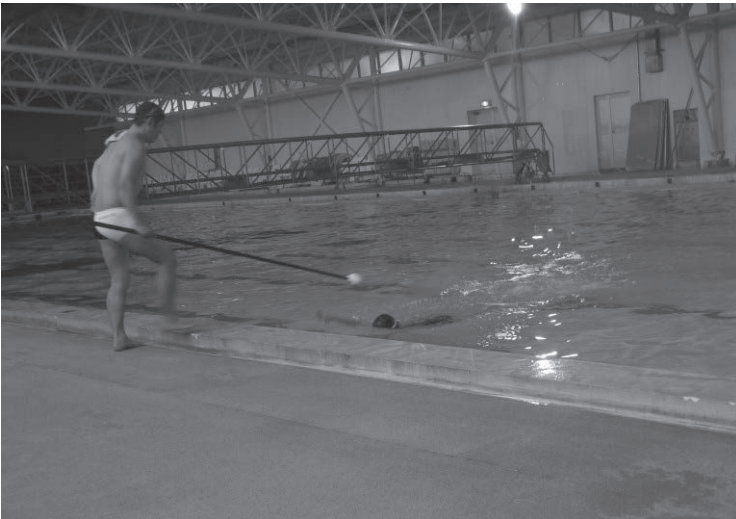


写真2 15mクロール泳測定風景

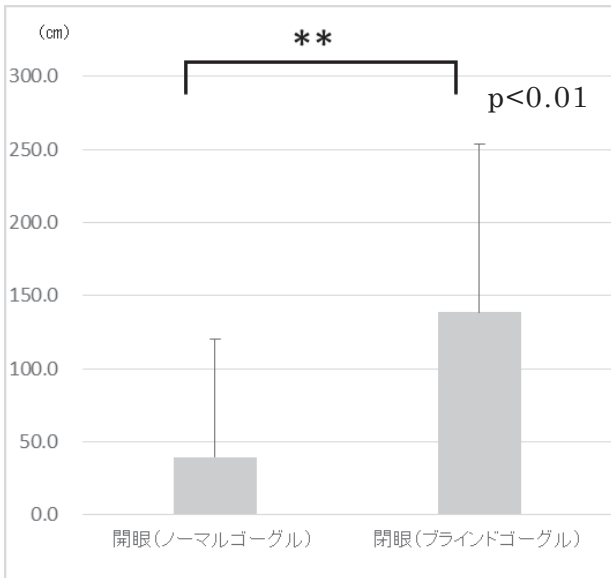


図1 ブラインドゴーグル着用・非着用時における
15mクロール泳の蛇行した距離

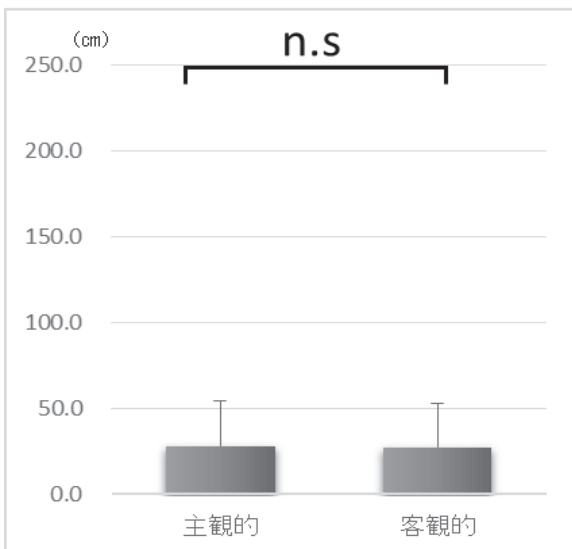


図2 15mクロール泳で蛇行した
主観的距離と客観的距離の比較
(ノーマルゴーグル)

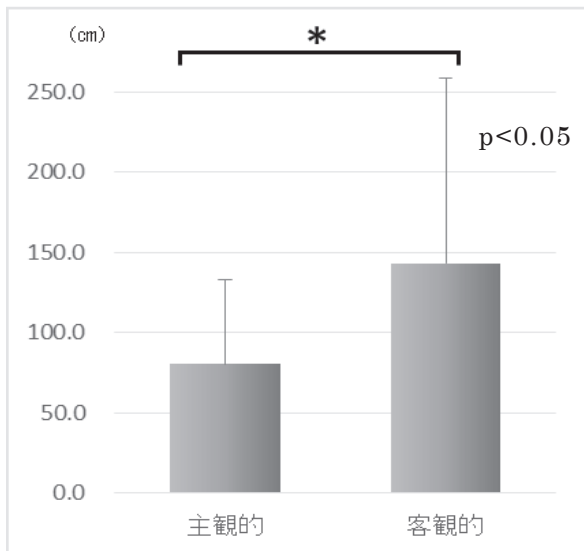


図 3 15mクロール泳で蛇行した
主観的距離と客観的距離の比較
(ブラインドゴーグル)